

## 斐伊川水系の特徴と課題

### 洪水対策

- ・天井川であり、破堤すると大きな被害
- ・宍道湖・中海では洪水がはげにくく浸水が長期化
- ・昭和47年洪水では県都松江市が1週間以上も浸水
- ・斐伊川水系と神戸川水系の一体的な治水計画

### 河川の水量、水質

- ・上流～中流域は水質基準をクリアするが、宍道湖、中海は水質基準をオーバー
- ・アオコ、赤潮、魚の大量死などの現象

### 河川の維持管理

- ・社会状況の変化により変動中の河床（上流部低下、下流部堆積）

### 環境

上流：清らかな水と落葉広葉樹林帯をはじめとする豊かな自然。

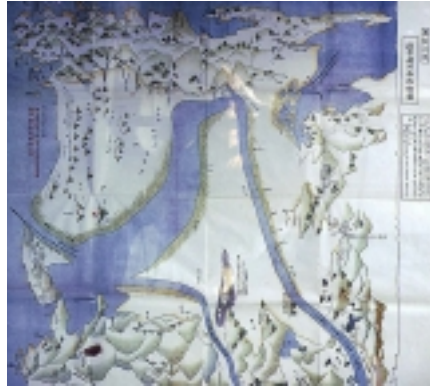
中流：平坦な砂河床で単調な生態系ながら鯰の尾等で自然が残る。

下流：2つの汽水湖とそれらをつなぐ大橋川。

# 斐伊川における現状、特徴及び課題

## 洪水対策

斐伊川が直接日本海に注いでいたことは絵図に残っています。

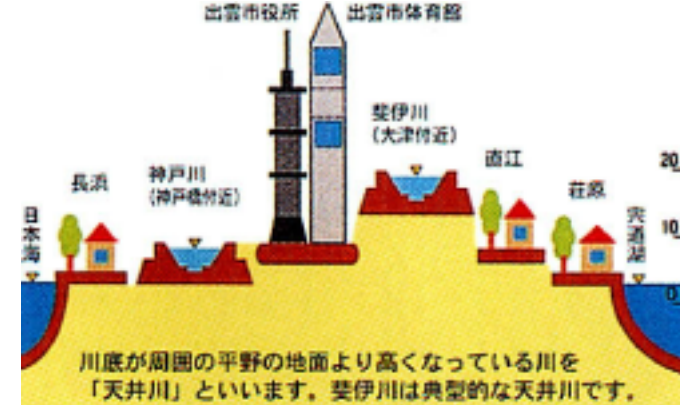


島根県立図書館所蔵

・ 下流に2つの湖を抱える河川



・ 堤内よりも水面の高い天井川



## 洪水がはげにくい

- ・ かつて斐伊川は日本海へ直接、注いでいた。1630年代の洪水で斐伊川は宍道湖へ流入以降、宍道湖沿岸の洪水が多くなった
- ・ 日本海との水位差が小さい宍道湖、中海、宍道湖、中海の洪水は海へ流れにくい浸水が長期化しやすい

## 川底が周囲より高い天井川

- ・ ひとたび決壊すると被害が甚大

・ 昭和47年出水



出雲空港（完全閉鎖10日間）



松江市内（浸水が1週間に及ぶ）

## 昭和47年7月出水

- ・ 浸水面積 約70km<sup>2</sup>
- ・ 浸水期間 1週間以上
- ・ 家屋被害 約25,000戸
- ・ 出雲空港の閉鎖
  - 完全閉鎖 10日間
  - 夜間閉鎖 約210日

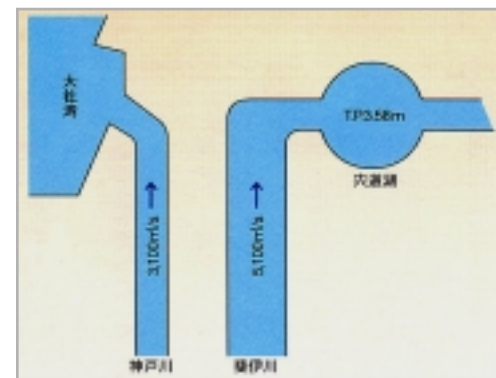
- ・ 宍道湖の最高水位 TP. 2.50m (昭和47年7月13日)

## 宍道湖の水位低下対策

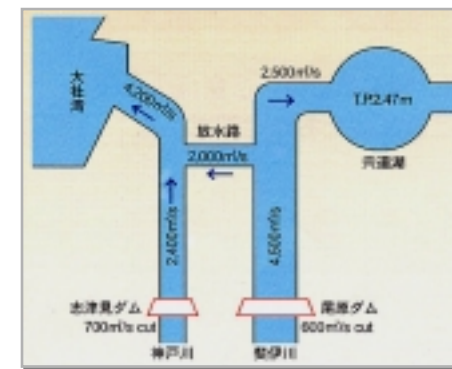
3点セットによる抜本的治水対策

- ・ 斐伊川、神戸川の上流にダムを建設し洪水調節
- ・ 放水路の建設と本川の改修
- ・ 大橋川の改修と中海・宍道湖の湖岸堤整備

斐伊川水系と神戸川水系の  
一体的な治水計画



3点セット整備前



3点セット整備後



# 斐伊川における現状、特徴及び課題

## 水利用と水質



・尾原ダム水道用水供給予定市町村



・昭和48年湯水新聞記事



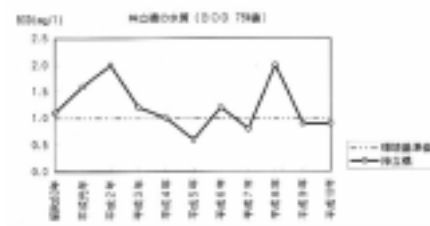
・昭和48年湯水給水車出動状況

## 尾原ダムによる水利用

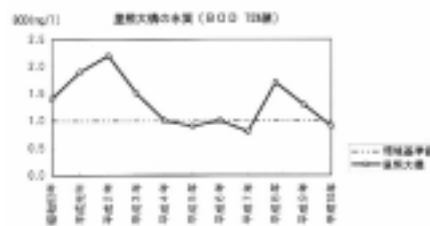
- ・水道水の供給  
松江市、平田市、東出雲町、八束町、鹿島町、美保関町、玉湯町、宍道町、加茂町、八雲村の2市7町1村へ供給

## 斐伊川の水質

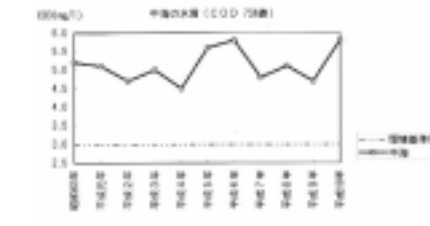
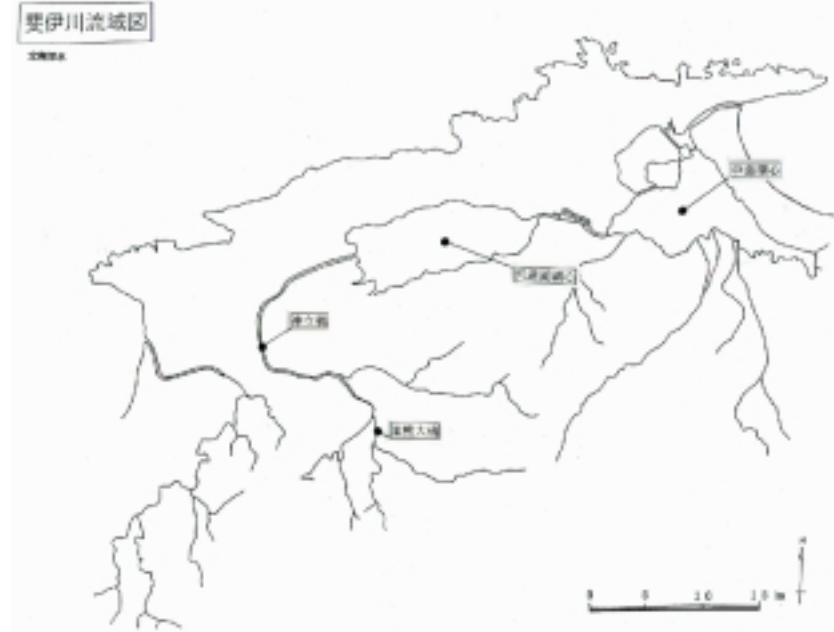
- ・上流～中流域は水質基準をクリア
- ・宍道湖、中海は水質基準をオーバー。
- ・宍道湖、中海では富栄養化等により、アオコ、赤潮、魚の大量死などの現象が見られる。
- ・水質悪化の著しい米子湾では、湖底の底泥を浚渫により除去する中海浄化事業が実施一定の効果を上げている



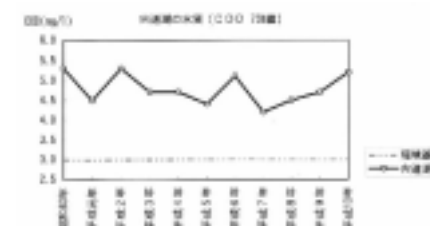
・神立橋の水質



・黒熊大橋の水質



・中海の水質



・宍道湖の水質  
宍道湖、中海は環境基準点(全層平均値)の平均値。

水質保全対策を、関係機関等と連携流域からの流入負荷削減や生物を利用した浄化や底泥からの溶出負荷削減等の水質保全対策について関係機関等と調整を図り、検討、推進



ア オ コ



赤 潮

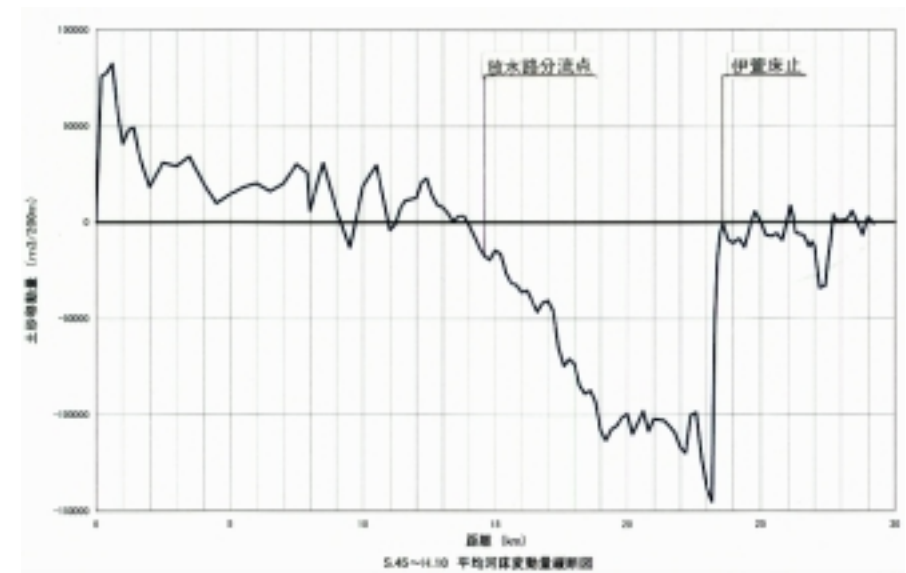


コノシロのへい死



# 斐伊川における現状、特徴及び課題

## 河川の維持管理 ・河床変動状況



経年土砂移動量

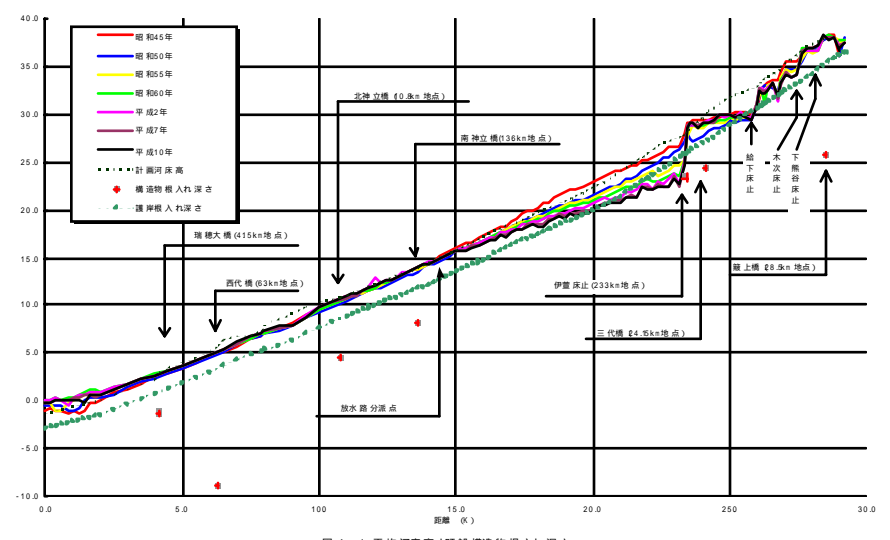


図4-1 平均河床高と既設構造物根入れ深さ

河床経年変化

## 砂河床の維持管理

- ・以前は土砂供給が大  
「鉄穴流し」と呼ばれる砂鉄採取に伴う廃砂  
上流域は風化花崗岩が広く分布
- ・社会状況の変化により土砂供給が減少  
上流での砂防施設の整備  
「鉄穴流し」の中止
- ・放水路分流点付近は、適正な分派のためにも河床管理が必要

土砂移動など河川の状況を、今後とも調査、把握し、堆積土砂対策等の適切な河床管理、流域土砂管理を図る

## 河川環境の現状

- ・上流部：清らかな水と落葉広葉樹林帯をはじめとする豊かな自然
- ・中流部：平坦な砂河床で瀬、淵の形成はなく、魚類の種類、生息数とも少ない。鯰の尾等により自然が残る。宍道湖流入部は西日本有数の水鳥の渡来地
- ・下流部：汽水湖である宍道湖、中海、それらを結ぶ大橋川、及び境水道
- ・上流部：現状の河川環境の保全に努める
- ・中流部：河道内の植生群落については、河川環境の保全並びに災害防止の観点から適正に管理する。
- ・下流部：河川、湖沼環境および景観に配慮した湖岸堤等の整備を促進。

また、斐伊川が育ててきた多様な生態系や人とのふれあいの場をより良好なものとして後継へ継承するよう努める。

## ・河川環境の整備と保全



高水敷の植生群落

- ・鯰の尾等によって、高水敷の植生が隔離され、保全されている。



湖岸整備のイメージ